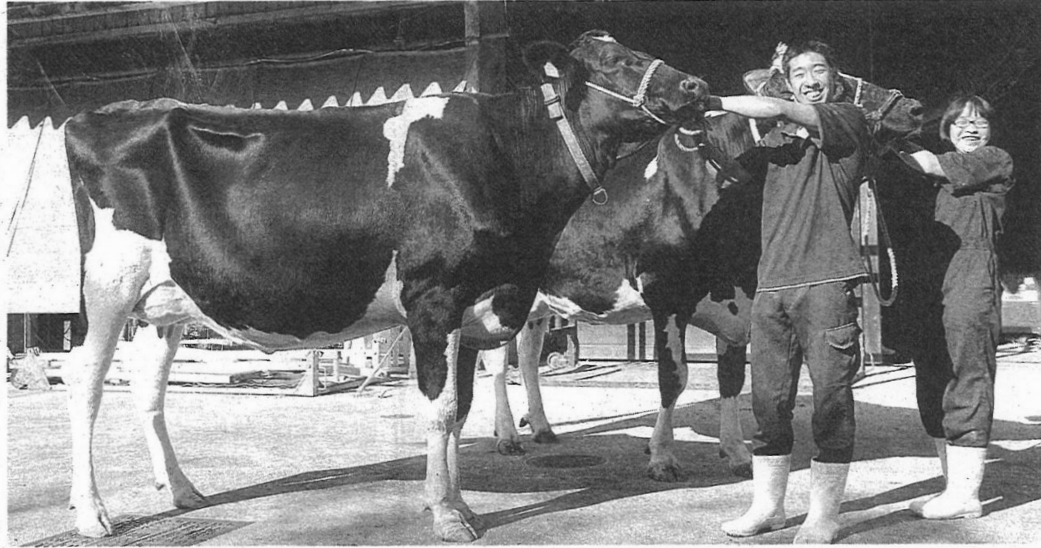


# 島農の乳牛群 都府県一に

## 体型審査 2年ぶり4度目の栄誉

島原農高(前田達彦校長)の畜産部が飼育する15頭が、日本ホルスタイン登録協会の2019年度牛群体型審査検定の10〜29頭クラスで、北海道を除く都府県で1位に輝いた。トップは17年度審査以



畜産部の管駿介君と横田光さん

### 優秀なEX牛 高い飼育率

来2年ぶり4度目。

審査は昨年7月とことし2月に行われ、このほど結果が分かった。頭数によって3クラスに分けられ、都府県の事前審査により同クラスは752戸のうち30戸・校が審査対象に。同協会の審査員が各都府県の酪農家や農業系高校を巡回訪問し、体型や姿勢、乳房の形や質などを審査し、牛群のレベルを示す平均偏差値の高い順に順位を決めた。同校では約40頭を飼育し、出産経験のある約半数のうち延べ15頭が審査を受け、平均審査得点87.0点をマークし、トップになった。

審査得点が90点以上の牛はエクセレント(EX)の称号を得ることができ、同校ではひ孫世代まで4代にわたって18頭が獲得しており、その飼育割合も高い。また、10年連続で優秀牛群トップ10入りを果たしており、OBらの地道な努力と現役部員らの奮闘ぶりの積み重ねが実を結び続けている。

主に面倒を見ているのは、横田光さん(17) 南島原市深江町 農業科学科3年生2人の畜産部。部長の管駿介君(17) 島原市有明町は卒業後すぐに実家の酪農を手伝う決意を固めており、「毎年1位を目指しており、トップは嬉しい。将来のために自信につながる」と語り、指導する森広太郎教諭(46)は「生徒たちの日々の管理に加え、地域の農家やOBの協力も大きく、1位をとれたことに感謝したい」と話した。